

SDGsブックレット
2022



サステナビリティ

サステナビリティとは、「現代の貧困や格差などの社会課題を克服しつつ、将来世代のあらゆるニーズを損なわないよう、限りある地球の生産力の範囲内に発展を収めて、持続可能なものにしていこう」という考え方です。2030年をターゲットとしたSDGsの「持続可能な社会の実現」に向け、政府や市民だけでなく、企業にも具体的な行動が求められています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

サステナブルな社会を実現するために掲げられた世界共通の目標「SDGs」



米国 BRT「ステークホルダー資本主義」を宣言

2019年8月、米国の主要企業経営者で構成するビジネス・ラウンドテーブル (BRT) が、「米国の経済界は株主だけでなく、従業員や地域社会などすべてのステークホルダーに経済的利益をもたらす責任がある」とする声明を発表、これまでの「株主資本主義」から「ステークホルダー資本主義」への転換を宣言しました。

日本政府「ビジネスと人権」に関する行動計画を策定

2020年10月、外務省が企業活動における人権尊重の促進を図るため、「ビジネスと人権」に関する2025年までの国別行動計画 (NAP) を策定しました。本計画では、今後日本政府が取り組む各種施策や企業活動における人権デュー・ディリジェンスの導入・促進への期待が表明されています。

2019

8月

2020

Contents

サステナビリティを取り巻く動向	1	マテリアリティ 1 : あらゆるリスクに対する備えの提供	15
SOMPOグループの歴史・事業ドメイン	3	マテリアリティ 2 : 事故や災害を未然に防ぎ、 レジリエントな社会に貢献	17
SOMPOのパーパス		マテリアリティ 3 : 経済・社会・環境が調和した グリーンな社会づくりへの貢献	19
1) SOMPOのパーパスとは	5	マテリアリティ 4 : 健康と笑顔を支えるソリューションの提供	21
2) その実現に向けた成長ストーリー	6		
3) パーパス実現に向けた取組み	7		

を取り巻く動向

サステナビリティを取り巻く国内外の動向

2022

COP15 (第15回生物多様性条約締結国会議)

2021年10月、中国・昆明で第一部が開催されました。ハイレベルセグメントでは、多くの国・地域の首脳や閣僚から生物多様性に関するコミットメントや取組みが表明され、2022年に開催予定の第二部における「ポスト2020生物多様性枠組」の採択に向けた決意を示す「昆明宣言」が採択されました。

10月

COP26 (第26回気候変動枠組条約締結国会議)

2021年10月、イギリスで気候変動対策の国連会議が史上初めて対面およびオンラインのハイブリッド型で開催されました。世界の平均気温上昇を産業革命前から1.5℃に抑える努力を追求する、石炭火力発電を段階的に削減するなどの内容を含む「グラスゴー気候協定」が採択されました。

2021

10月

政府によるカーボンニュートラル宣言

2020年10月、当時の菅首相は所信演説で2050年までに温室効果ガス排出を全体としてゼロとするカーボンニュートラルを宣言し、2021年4月には2030年までに2013年度比で46%削減することを表明しました。

編集方針

「SDGsブックレット」は、当社グループのサステナビリティの取組みの一部を簡潔に紹介する冊子です。より網羅的なサステナビリティ情報はサステナビリティサイトをご覧ください。

<https://www.sompo-hd.com/csr/>

マテリアリティ5：持続可能な高齢社会への貢献……………	23
マテリアリティ6：未来社会を変える人材集団の実現………	25
マテリアリティ7：価値創造に向けたパートナーシップの プラットフォーム構築……………	27
サステナビリティの考え方……………	29
社外からの主な評価……………	30

SOMPOグループの歴史・事業

当社グループの社会課題への取組みの歴史

当社グループの主な歴史

1888年 日本初の火災保険会社として東京火災（現損保ジャパン）創業。
火事の多い東京で、24時間365日体制でお客さまを火災から
守るため、私設消防団を設置

1888年

1976年 洋画家・東郷青児の協力を得て、安田火災海上（現・損保ジャパン）
本社ビル42階に「東郷青児美術館（現・SOMPO美術館）」を開館

1965年

1976年

2010年 NKSJホールディングス株式会社（現 SOMPOホールディングス株式会社）設立

2015年 介護事業に本格参入

2016年 「安心・安全・健康のテーマパーク」の実現を目指す中期経営計画のスタート

2016年 SOMPO Digital Lab 設置

2019年 Palantir Technologies Japan 設立（27ページ）

2020年 グループ CEO を本部長とした働き方改革推進本部の設置（25ページ）

2021年 SOMPO のパーパス公表（5ページ）

SOMPOグループの事業ドメイン

社会課題解決のDNAを継承する当社グループでは、多彩な事業を束ねるグループ力と、自らの強みを活かした課題解決を通じて新たな価値を生み出す事業によって多様な価値を創出しています。

国内損害保険事業

価値創造イノベーション
～最もお客さまに支持される
損害保険会社へ～

海外保険事業

多数の国・地域に展開
真に統合されたグローバルプラット
フォームの構築

 **SOMPO**
ホールディングス

ドメイン

当社グループの源流である東京火災は1888年、「火災から人々を守る」という使命感から日本初の火災保険会社として誕生しました。人口減少や少子高齢化、気候変動、そしてテクノロジーの進化など、私たちを取り巻く環境が大きく変化するなか、「人のために」「社会のために」という使命感を持ち、社会課題の解決に取り組んでいます。

当社グループCSRの取組みの主な歴史



●国内生命保険事業

「健康応援企業」の確立

●介護・シニア事業

「世界に誇れる豊かな長寿国日本」の実現に貢献

●デジタル事業

人々に新たな光となる価値をもたらし、共創共存の渦により新たな社会を実現

SOMPOの

1 SOMPOのパーパスとは

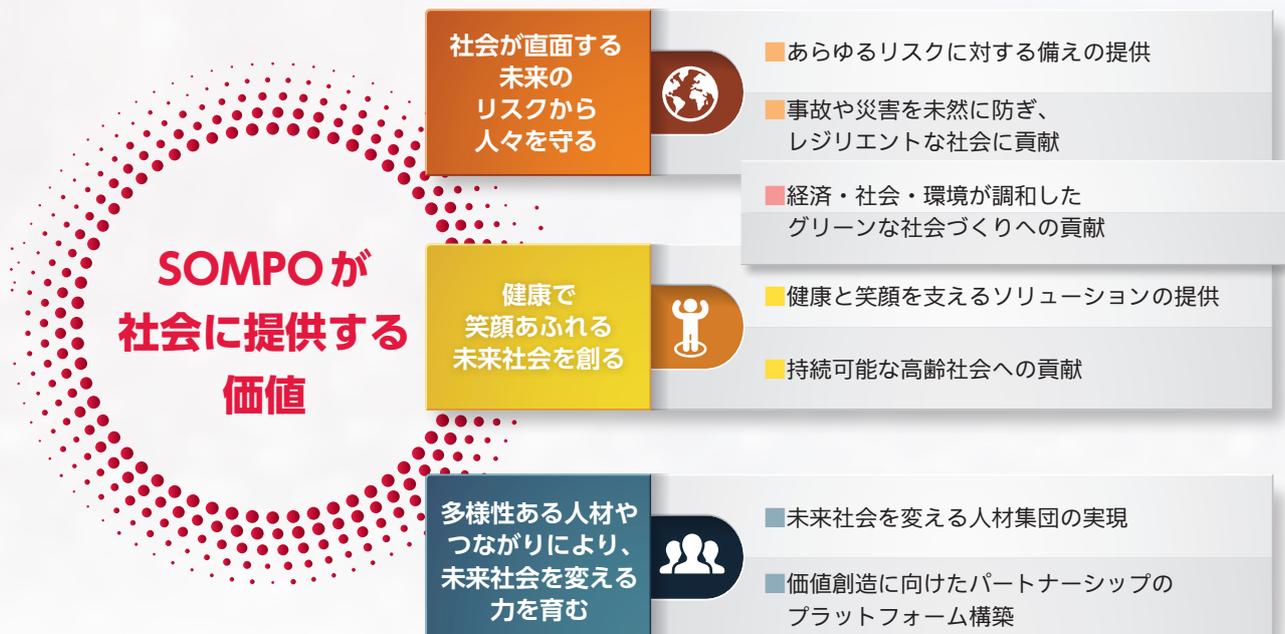
当社グループでは、この先の20年、50年という長期のスパンでグループが何を目指していくのかを「SOMPOのパーパス」として決めました。その新設にあたっては、培ってきた強み、世界のメガトレンドといった当社を取り巻く環境変化、そして当社が向き合う社会課題などをふまえ、「SOMPOだから社会に提供できる価値」とは何かについて徹底的に議論を重ねました。

そして「SOMPOのパーパス」は、「“安心・安全・健康のテーマパーク”により、あらゆる人が自分らしい人生を健康で豊かに楽しむことのできる社会を実現する」ことであり、具体的には「社会が直面する未来のリスクから人々を守る」「健康で笑顔あふれる未来社会を創る」「多様性ある人材やつながりにより、未来社会を変える力を育む」といった3つの価値を社会に提供していくこととしました。

また、「SOMPOのパーパス」の実現に向けた重要課題を「7つのマテリアリティ」として決めました。

SOMPOのパーパス

“安心・安全・健康のテーマパーク”により、
あらゆる人が自分らしい人生を健康で豊かに楽しむことのできる社会を実現する

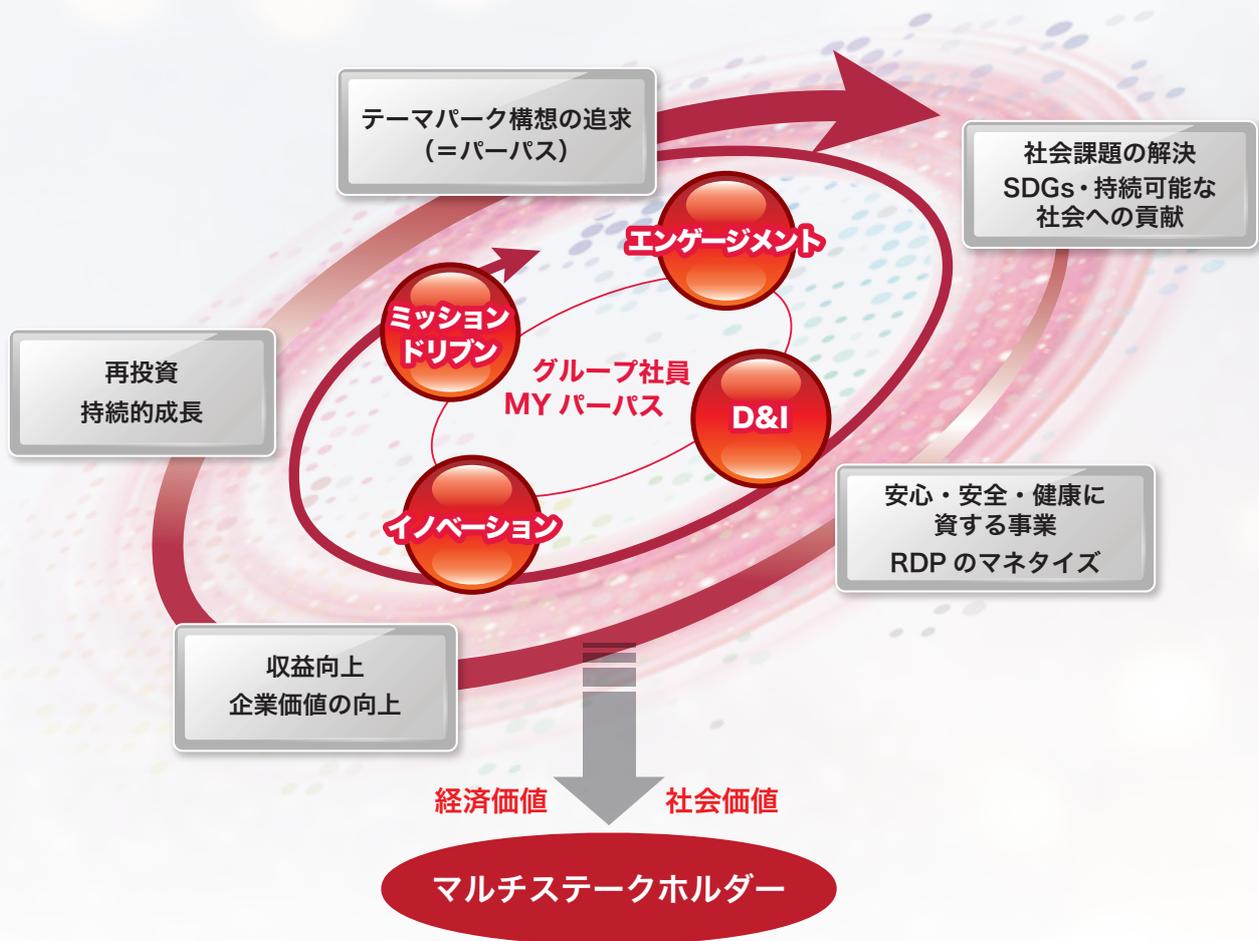


■ ■ ■ ■ : パーパス実現に向けた 重点課題 (= SOMPO のマテリアリティ)

パーパス

2 その実現に向けた成長ストーリー

当社グループにおいては、「テーマパーク構想」を追求していくことがパーパスそのものであるととらえています。つまり、テーマパーク構想の追求が、社会課題の解決につながり、持続可能な社会への貢献につながっていきます。そして、「SOMPOらしさ」の一つである、「リアルデータ・プラットフォーム」(RDP)という仕組みにより、テーマパーク構想の追求をマネタイズし、企業価値を高め、それを再投資するという循環を加速させていきます。そして、これらの実現を支えるのが「人」(グループ社員)であり、その原動力が社員一人ひとりの「MYパーパス」です。



SOMPOの

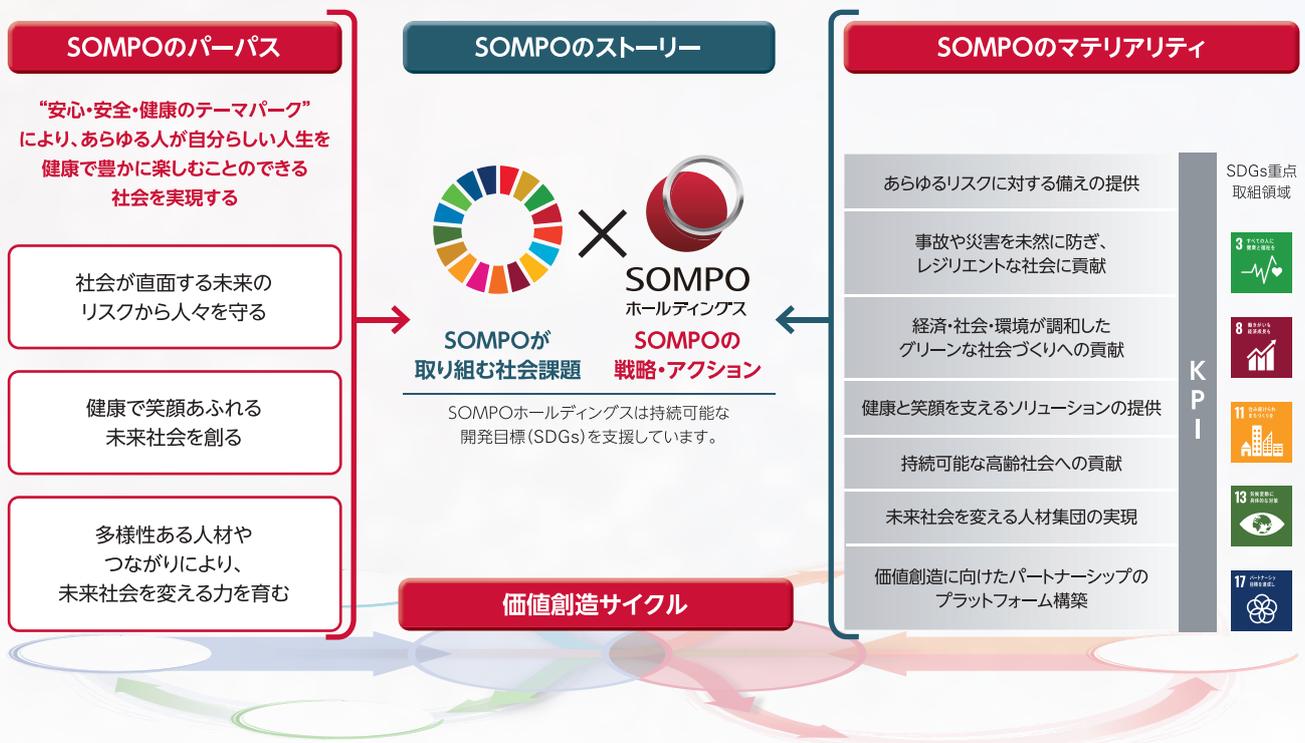
3 パーパス実現に向けた取組み

1 パーパス・ドリブンな経営を駆動するフレームワーク

2021年度からの3年間の中期経営計画では、「SOMPOのパーパス」の実現に向け、本業を通じた社会課題解決により、経済価値と社会価値の創出に取り組む「SDGs経営」を経営基盤に位置付けています。

その推進にあたっては、SOMPOが取り組む社会課題や戦略・アクションにマテリアリティ・KPIを定めて経営のフレームワークに組み込むとともに、そのアウトカムを世界共通言語であるSDGsで客観化して発信・訴求することでPDCAを実践していきます。

SDGs経営の全体像



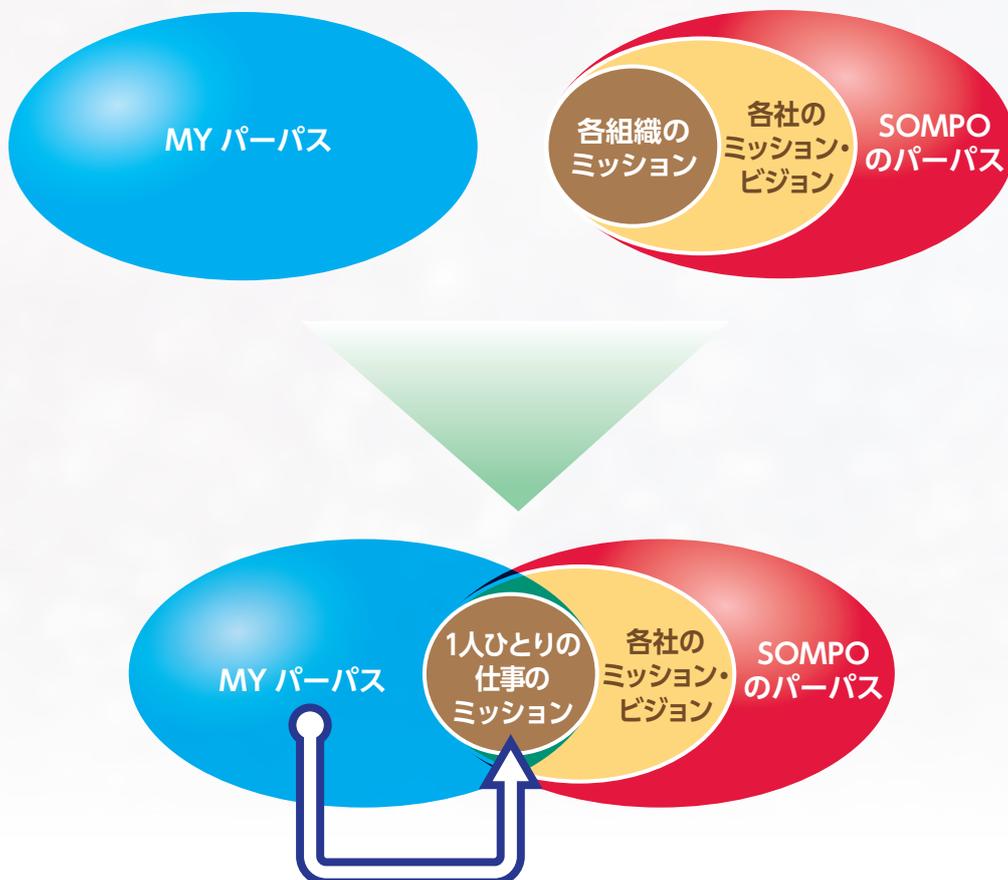
3 パーパス実現に向けた取組み

2 パーパス浸透の取組み

1 ▶ SOMPOのアプローチ

経営戦略を支え、パーパス実現に向けたドライバーとなるのは「人」です。当社では、社員一人ひとりが、自らの人生の目的である「MYパーパス」に突き動かされ、自律的に働くことがSOMPOのパーパス実現には不可欠であると考えています。そのためには、「自分自身はどのような人間なのか」「自分にとっての幸せとは何か」「自分自身が人生において成し遂げたいことは何か」「会社のパーパスとMYパーパスのどの部分が重なり合い共鳴するのか」といったことについて深く考え、向き合うことの重要性を伝え、浸透を図っています。

SOMPOのパーパス浸透のアプローチ



パーパス

「SOMPOのパーパス」の実現に向けて、グループ各社が策定したものが各社のミッション・ビジョン等であり、ミッション・ビジョン等の中には各組織の仕事のミッションがあります。そして、「MYパーパス」とそれらが重なり合うところが、一人ひとりの仕事のミッションであり、一人ひとりが仕事のミッションを達成していくことで、「SOMPOのパーパス」の実現につながっていきます。

このような考えのもと、当社グループでは、「SOMPOのパーパス」や「MYパーパス」の重要性について、社員一人ひとりが、認知・理解・共感し、実践・習慣化していくことを目指し、トップの発信、現場の取組みを進めるとともに、アンケートやエンゲージメント・サーベイ等により浸透の測定にも取り組んでいます。

パーパス浸透の取組みの全体像

<p>① 経営層による発信</p>	<p>タウンホールミーティング</p> <ul style="list-style-type: none"> CEO/各事業オーナーによるタウンホールミーティングにより、トップ自ら社員と対話 	
<p>② 各職場での取組みとその支援策</p>	<p>MYパーパス 1on1</p> <ul style="list-style-type: none"> MYパーパス 1on1 を枠組みとして活用 上司・部下との対話で浸透・自分事化 <p>その他施策</p> <ul style="list-style-type: none"> ワークショップ、MYパーパス共有会、動画等のサポート施策 	
<p>③ 浸透の測定</p>	<p>アンケート (タウンホールミーティング等)</p> <ul style="list-style-type: none"> CEO/各事業オーナーによるタウンホールミーティングでのアンケート実施 <p>エンゲージメント・サーベイ</p> <ul style="list-style-type: none"> エンゲージメント・サーベイ (年2回 (6月、12月) 実施) アンケートとエンゲージメントの突合分析 	

3 パーパス実現に向けた取組み

2 パーパス浸透の取組み

2▶ グループCEOによるタウンホールミーティング

当社ではグループ社員一人ひとりに対して、「SOMPOのパーパス」や「MYパーパス」を持つことの重要性をトップ自ら伝える場として、グループCEOの櫻田によるタウンホールミーティングを開催しています。2021年は、9月から11月にかけて国内のグループ各社の社員を対象として合計7回にわたりオンラインで開催し、約10,000名が参加しました。

タウンホールミーティングではパーパスが必要となる背景や「MYパーパス」の作り方、自身の「MYパーパス」やそのベースとなる原体験、「SOMPOのパーパス」へと続く思いを櫻田から語るとともに、各事業からパネリストとして選ばれた社員が、各人のMYパーパスについて櫻田と対話を行いました。

参加者からは、「パーパスについてよくわかり納得できた」「普段聞けないCEOの話聞いて元気をもらった」「自分自身のパーパス、人生を考える貴重な機会になった」「SOMPOグループには素敵な仲間がたくさんいてうれしい」といったコメントが多数寄せられました。

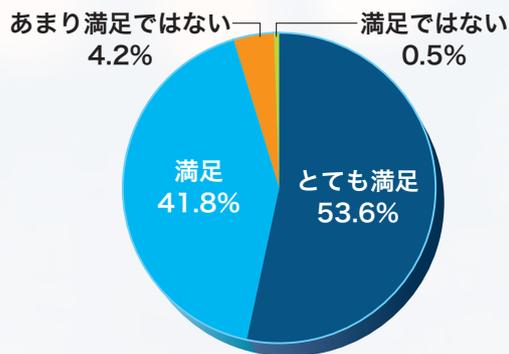


パーパス

タウンホールミーティング参加者向けアンケート

アンケート結果（全7回累計）

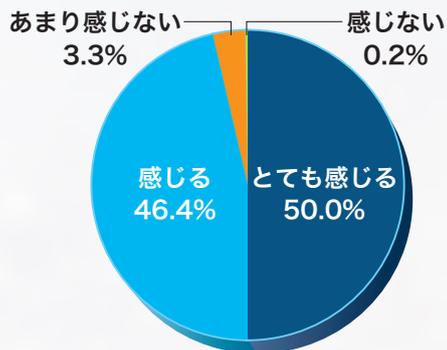
Q. ミーティング内容に満足したか



Q. MY パーパスを理解し、持ちたいと思ったか



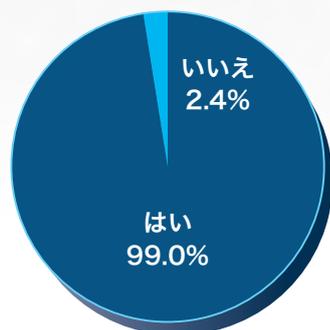
Q. 会社がよくなると感じたか



Q. SOMPO のパーパスを意識して働きたいか



Q. MY パーパスを作り、実現に取り組みたいか



3 パーパス実現に向けた取組み

2 パーパス浸透の取組み

3 ▶ MY パーパス

自分自身の人生・キャリアを「WANT (内発的動機)」「MUST (社会的責務)」「CAN (保有能力)」の3つの観点で振り返ることが、「MYパーパス」作りのスタートです。

【WANT】 もっとも心が動く瞬間、やりがいを感じた瞬間は？ なぜ心が動くのか？

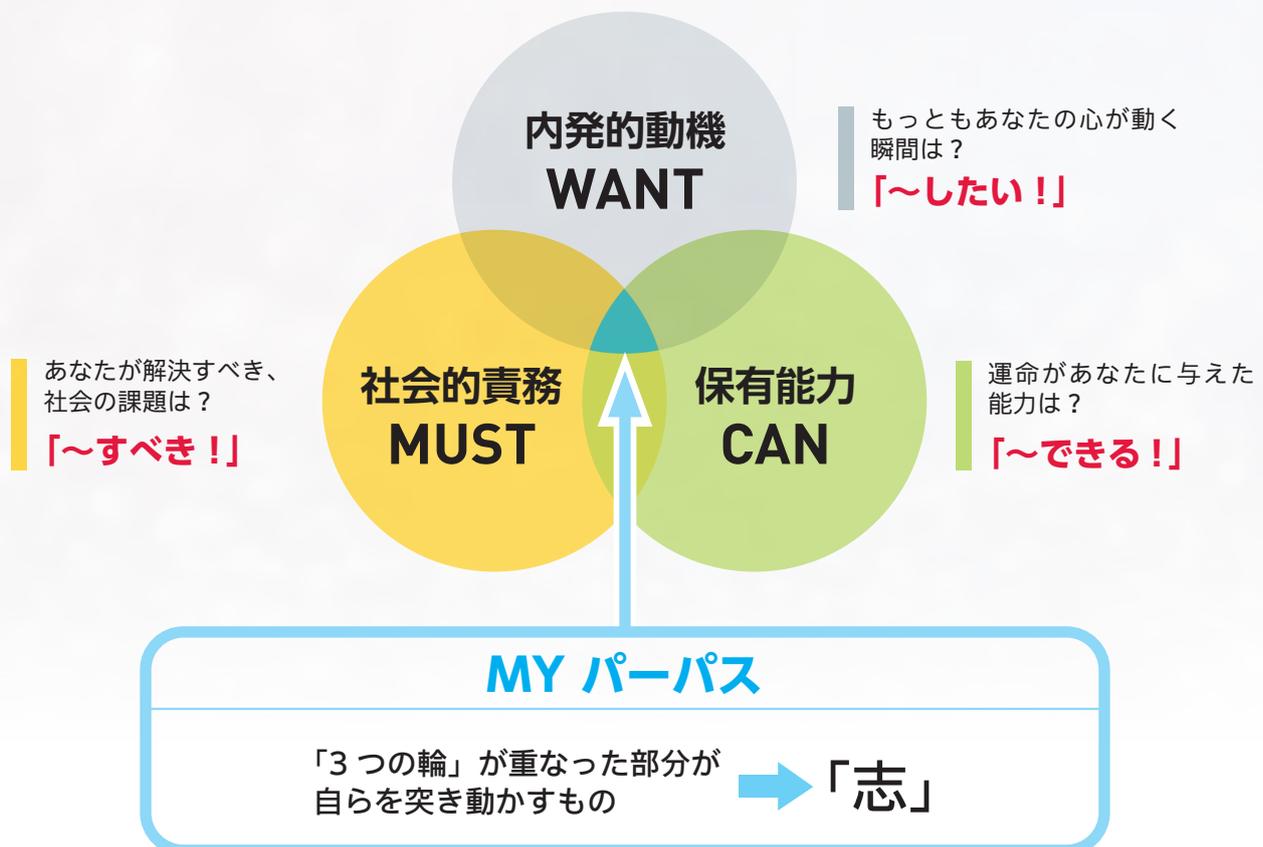
【MUST】 悔しかった瞬間、怒りを覚えた瞬間、悲しかった瞬間は？ 解決すべき社会の課題は？

【CAN】 成功体験、修羅場・土壇場・正念場は？ そこから得たもの(知識、能力、意識)は？ 運命(これまでの経験)が与えた能力は？

この3つの輪の重なる部分が「MYパーパス」であり、これらをステートメントとしてまとめていきます。

当社グループでは、MYパーパス導入研修やワークショップを開催し、社員の「MYパーパス」作りを支援するとともに、会社や部署を超えた仲間と語り合う共有会も開催しています。

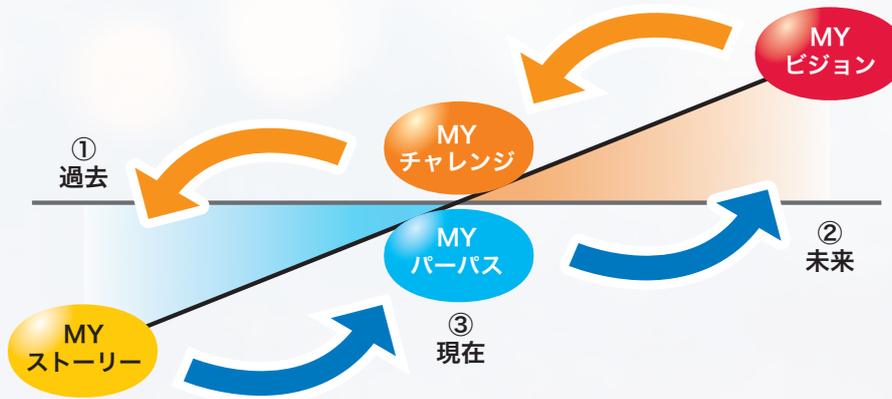
「MYパーパス」を持つ社員は、職場の上司と「MYパーパス 1on1」を実施します。これは、「コト(仕事)」ではなく、「人」をテーマとした対話です。「MYパーパス」はそれぞれの過去の経験(MYストーリー)からできています。



パーパス

下記の図は、「MYパーパス」の実現に向けた将来のありたい姿（MYビジョン）に向けて、MYチャレンジを引き出すダイアログフローです。当社では、このような対話をグループ全体で実施することで、社員一人ひとりが「MYパーパス」を語り、それを互いに認め合い、「MYパーパス」を真ん中においた対話がグループのいたるところでなされ、新たなチャレンジとイノベーションが生まれるという企業文化を作ることで、「SOMPOのパーパス」を実現していくことを目指しています。

MY チャレンジを引き出すダイアログフロー



Copyright 2020 THINK AND DIALOGUE Inc.

社員のMYパーパス例



SOMPO ひまわり生命保険(株)
事業企画部

「WANT」

世の中の方を健康にすることで、お客様から感謝の声をいただくことが自分の存在意義であり、それを感じることのできる人生でありたい

「MUST」

生命保険の仕組みが正しく理解されていない結果、不幸になる人が多くいる現状を解消しないといけない

「CAN」

相手の現状を正しく理解するためにコミュニケーションし、適切な解決策を提供する

MY パーパス

保険という素晴らしい仕組みを「正しく」多くのお客様にお届けするとともに、人々の「健康・金融」知識を向上させることで、社会に貢献したい



SOMPO ケア(株)
SOMPO ケア福井訪問介護

「WANT」

一人ひとりが自分の得意分野を生かし、助け合い、「みんなで成長すること」が幸せでやりがいを感じる

「MUST」

一人ひとりが納得し、やりがいを感じながら仕事ができる環境を作りたい

「CAN」

納得し、やると決めたら最後までやる

MY パーパス

本当の自分の気持ちで、自分や相手の感情を理解し、みんなが「正しく・楽しく」仕事ができる環境をつくる



中小企業向けパッケージ型商品において役員および 従業員の疾病リスクを補償する『メディカル・マスター』

人手不足が喫緊の課題となっている企業において、従業員ロイヤリティ向上や離職防止を目的として、福利厚生制度を充実させることで優秀人材を確保する動きが広がっています。一方で、役員・従業員にとっては病気等で就業できなくなることの不安も広がっています。

損保ジャパンは、主力商品である「ビジネスマスター・プラス（事業活動総合保険）」に役員・従業員個人の疾病リスクを補償するプラン「メディカル・マスター」を2021年6月から販売開始しました。役員・従業員の疾病や休業リスクを補償する「メディカル・マスター」を通して、企業の福利厚生制度の更なる充実をサポートし、人手不足の課題を解決するとともに、就業ができなくなる不安を解消することで、人々が安心して働ける社会の実現に貢献していきます。

- 3.3 伝染病や感染症の根絶・対処
- 3.4 健康とウェルビーイング
- 8.3 イノベーションによる中小零細企業の支援



床上浸水時の保険金自動算定サービス 「SOMPO水災サポート」

損保ジャパンは、火災保険の床上浸水による事故の保険金請求において、お客さまがスマートフォンで撮影された被害状況をもとに、お受け取りいただける保険金の概算を算出するサービス「SOMPO水災サポート」を、2020年10月より開始しています。

AI技術の活用により、お客さまがスマートフォン上でペットボトルとともに撮影した被害箇所の画像データをもとに、浸水高の測定と概算の保険金を自動で算出し迅速に保険金をお支払いします。新型コロナウイルス感染症拡大を契機とした新しい生活様式への変化など、お客さまを取り巻く環境変化をふまえ、保険金請求においてもデジタル活用による非対面の接点の拡充等、今後もお客さまのニーズに応える事故対応サービスを提供していきます。

- 13.1 気候変動への適応
- 8.10 保険・金融サービスへのアクセシビリティ
- 11.b 災害レジリエントな街づくり

SOMPO 水災サポート利用イメージ



対する備えの提供



ご契約から保険金請求までスマホで完結する 実費型医療保険『入院パスポート』

損保ジャパンは、原則24時間以内・最短30分で保険金をお支払いする実費型医療保険『入院パスポート』を2021年6月より提供しています。この商品は、将来の予測不能な入院の治療費を不足なく実費型で補償するだけでなく、入院前にお受け取りいただける入院準備保険金、入院されたご本人や看病されるご家族の負担軽減を目的とした入院時選べるサポート等、入院前から退院後まで安心をご提供し、治療に専念できる補償内容となっています。今後も、InsurTech(Insurance + Technology)を活用した新たな保険サービスの提供を目指していきます。

- 8.10 保険・金融サービスへのアクセシビリティ
- 3.3 伝染病や感染症の根絶・対処
- 3.4 健康とウェルビーイング



スマホのトラブルからお子さまを守る 法律相談サービス付き「こどもスマホ保険」

当社グループの少額短期保険会社であるMysurance株式会社は、スマートフォンを持つお子さまの万が一のトラブルに備える「こどもスマホ保険」を開発し、2020年2月から提供を開始しました。お子さまのスマホの破損・故障や盗難・紛失等の補償に加え、SNSいじめや課金トラブルなど保護者の方が不安を抱いているお子さまのスマホトラブルに対して、無料で弁護士に法律相談できるサービスを付帯しています。学校現場では防犯・防災の観点などからお子さまのスマホ持ち込みを許可するケースが増えている一方、インターネットを介して多くの人とつながることで発生しうるお子さまのトラブルに対して、保護者の方は大きな不安を感じています。「誰もが楽しく安心してスマホを使えるように」そんな思いからMysuranceの「こどもスマホ保険」は誕生しました。またMysuranceは、学校での情報モラル

- 16.2 子どもに対する虐待、搾取等の撲滅
- 17.17 公的、官民、市民社会のパートナーシップ
- 8.10 保険・金融サービスへのアクセシビリティ



教育に関して多くの実績を持つ国立大学法人静岡大学教育学部塩田研究室との産学連携共同研究に取り組み、親子で学べる対話型の情報リテラシー教材を開発、提供しています。今後もこのような取組みを通じて、近年大きな社会課題となっているお子さまのスマホ利用にまつわる様々なトラブルの減少に取り組んでいきます。



通信機能付きドライブレコーダーを活用した 安全運転支援サービス『Driving!』

ドライブレコーダーは、2016年1月のスキーバス事故を契機に業務車両への装着義務化が進み、2017年の高速道路における「あおり運転」事故により、一般車両への普及が急速に進んでいます。損保ジャパンでは2018年に個人向け安全運転支援サービス『Driving!』をリリースして以来、サービス付帯前・後の比較では、約20%の事故削減効果が出ており、「高齢ドライバーの事故多発」や「あおり運転」等の社会課題解決に貢献しています。また、ドライブレコーダーの映像活用により、事故時のお客さまの不安解消および保険金支払い業務の効率化に寄与しています。2021年9月、機器のリニューアルを実施し、機器の高性能化および通信機能を活かした“つながる”ことによる事故時のサービスの高度化によって、さらなるお客さまへの安心・安全を提供します。



3.6 交通安全

8.10 保険・金融サービスへのアクセシビリティ

11.2 輸送システムへのアクセシビリティ



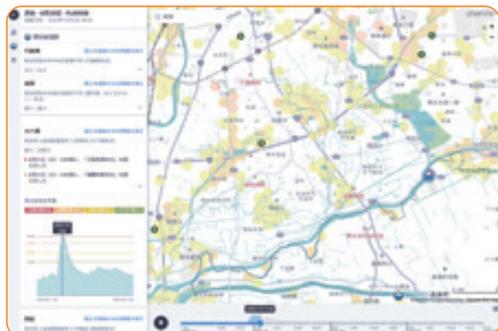
AIを活用した防災・減災システムの開発

損保ジャパンは、地域防災力向上のため、米国シリコンバレーのRaaS (Resilience-as-a-Service：サービスとしてのレジリエンス) ソリューションプロバイダーであるOne Concern, Inc.とともに、AIを活用した防災・減災システムの開発に取り組んでいます。本プロジェクトでは、洪水および地震の被害予測シミュレーションの提供を目指し、熊本市などの自治体での開発・実証を展開中です。本取組みを通し、災害に強いレジリエントな都市づくりに貢献するとともに、地域の皆さまの「安心・安全・健康」に資するサービスの実現を目指します。

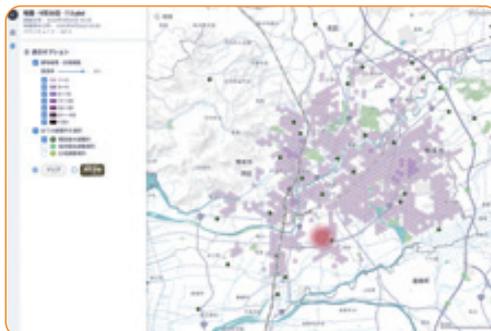
17.16 マルチステークホルダー・パートナーシップ

11.b 災害レジリエントな街づくり

13.1 気候変動への適応



洪水による被害予測画像



地震による被害予測画像

防ぎ、レジリエントな社会に貢献



マイカーを手放した方の移動リスクを補償する保険 『UGOKU (移動の保険)』

損保ジャパンは、マイカーを手放した方向けの業界初の保険『UGOKU (移動の保険)』を、2021年6月より提供しています。本商品は、お客さまご自身だけでなく、お客さまのご家族全員が、他人や企業の自動車やバイクに搭乗中、自転車、車椅子、ベビーカー、電車、バス、エスカレーター、お買い物中のトラブル等移動時の事故を幅広く補償します。近年、CASEやMaaSに代表されるモビリティ産業構造およびビジネスモデルの大きな変革により、「自動車を所有から使用へ」という、お客さまの移動に対する価値観や行動の変化が加速しています。『UGOKU (移動の保険)』により、社会環境や生活スタイルの変化のなかで、お客さまが安心して生活できる環境づくりに貢献します。

- 3.6 交通安全
- 8.10 保険・金融サービスへのアクセシビリティ
- 11.2 輸送システムへのアクセシビリティ



大切な人を想うと、防災を学びたくなる 『防災ジャパングプロジェクト』



© JAPAN-DA

損保ジャパンは、将来を担う子どもたちとその保護者を対象に、災害から身を守るための知識や安全な行動を学んでもらうことを目的として、「防災人形劇」および「体験型防災ワークショップ」を実施しています。新型コロナウイルス環境下においても防災の学びを止めないため、場所を問わずに楽しく学べる動画コンテンツもご用意しています。

- 4.7 持続可能な開発促進のための教育
- 11.b 災害レジリエントな街づくり
- 17.17 公的、官民、市民社会のパートナーシップ



累計参加者数：約**57,000人**

実施回数：**376回**

(2022年3月末)





生物多様性への取組み

当社グループは、1990年代から気候変動などの地球環境問題に取り組んでおり、2011年からNPOとの協働による生物多様性保全活動「SAVE JAPAN プロジェクト」に継続的に取り組んできました。2020年9月にはグループのサステナビリティ強化として、ラムサール条約やUNESCO世界遺産条約に登録された自然環境の保護・保全状況に努め、取引先・投資家への適切な対応を促す趣旨の方針を公表し、環境に負の影響を与える事業を特定、保険引受・投融資プロセスにおけるアセスメントを実施しています。今後も多様なステークホルダーとの対話を通じて、生物多様性への取組みを強化していきます。

- 17.16 マルチステークホルダー・パートナーシップ
- 13.3 気候変動の適応・緩和に対する啓発
- 4.7 持続可能な開発促進のための教育



ツキノワグマと人間の共生～里山ぼうけん in 長岡～



福井県赤谷川の生き物探し・観察会



累計参加者数：**47,800人以上**
 実施回数：**約893回** (2022年3月末)

洋上風力発電事業者向け「ONE SOMPO WINDサービス」

～洋上風力固有のリスク評価サービスと包括保険を一気通貫で提供～

損保ジャパンとSOMPOリスクマネジメントは、洋上風力発電事業者向けに建設作業から事業運営までのリスク評価、およびリスクを包括的に補償する保険をセットで提供する「ONE SOMPO WIND サービス」の販売を2020年7月から開始しました。そして、2021年9月に「第4回エコプロアワード」(主催:一般社団法人サステナブル経営推進機構)において、優秀賞を受賞しました。二酸化炭素の排出が極めて少ない洋上風力発電事業の普及を促進することで、持続可能な社会の実現に向けて貢献します。

- 7.2 再生可能エネルギー割合の拡大
- 13.2 気候変動対策(緩和策)
- 17.16 マルチステークホルダー・パートナーシップ



和したグリーンな社会づくりへの貢献



災害に強い地域社会の実現を目指す 「地域防災プラットフォーム」

気候変動により台風や豪雨などの自然災害が激甚化し、地域のレジリエンス力の向上が重要になっています。損保ジャパンでは、AIを活用した防災・減災システムの実証実験を行うなど、水災害で悲しむ人をゼロにすることを目指して災害に強い地域社会構築のための協働の仕組み「地域防災プラットフォーム」を開始し、企業、自治体、NPOなどのステークホルダーとの対話を進めています。

2022年3月には岡山NPOセンターおよび災害支援ネットワークおかやまと、レジリエンスな岡山の構築に向けたパートナーシップ締結を行い、西日本豪雨の経験から生まれた被災地に必要な物資の調整システム『できるかもリスト』の普及促進に向けて取り組んでいます。

- 17.16 マルチステークホルダー・パートナーシップ
- 11.b 災害レジリエントな街づくり
- 13.1 気候変動への適応



～認識から行動へ～

「市民のための環境公開講座」



損保ジャパンでは、公益財団法人SOMPO環境財団および公益社団法人日本環境教育フォーラム (JEEF) と共催で、一般市民向けに1993年から30年にわたり「市民のための環境公開講座」を無料で開講しています。市民が環境問題を正しく理解・認識し、それぞれの立場で具体的な活動を実践できるように開講した講座で、コロナ禍のもと、2020年からオンラインで開催をし、全国の皆さまにご参加をいただいております。

- 12.3 食品ロスの減少
- 13.3 気候変動の適応・緩和に対する啓発
- 14.1 海洋汚染防止



累計参加者数： **29,300人以上**
(2022年3月末)



SOMPO認知症サポートプログラム ～認知症に備える・なってもその人らしく生きられる社会を～

当社グループは、「認知症に備える・なってもその人らしく生きられる社会」を目指し、「SOMPO 認知症サポートプログラム」を展開しています。認知症の早期発見と予防をコンセプトにした商品やサービス開発および啓発支援活動を行っています。

- 3.4 健康とウェルビーイング
- 5.4 育児・介護・家事労働の認識強化
- 10.2 全ての人の能力強化

商品・サービスのポイント



SOMPOひまわり生命

笑顔をももる 認知症保険

限定告知認知症一時金特約付払込期間中無解約返戻金限定告知骨折治療保険

“なる前”からのサポートも、
“なった後”の保障も

認知症だけでなく、MCIと診断された場合にも一時金を受け取れる保険商品です。



SOMPOケア

SOMPO ケア

認知症ケアの高度化

認知症になってもその人らしく暮らし続けられるよう、ご利用者さまの想いを聞き、健康状態や生活環境などの観察をもとにケアを行います。



損保ジャパン

親子のちから

働く世代の介護離職に
ストップ!

働く世代の介護離職にストップ!親を介護しながら働く子の介護費用を補償し、介護離職を防止する団体向けの保険商品です。



プライムアシスタンス

SOMPO 笑顔倶楽部

認知症に関する
総合情報プラットフォーム

認知機能チェックや認知機能低下の予防に資するサービス、認知症の基礎知識や介護に関する情報を提供する Web サービスです。認知症の最新ニュースや基礎情報等の一部のコンテンツは一般開放も実施しています。



特定保健指導・健康相談、メンタルヘルス対策などのサービスを提供

～働く人の健康保持・増進を通じて、より多くの「こころと身体」の健康の実現に貢献します～

SOMPOヘルスサポートは、医療保険者の健康増進に対するニーズにお応えします。全国を網羅する専門職ネットワークと最新のデジタル・ICT技術を活用した支援ツールを融合し、健康情報提供から特定保健指導・重症化予防に至るまで幅広くサービスを提供しています。企業の産業保健活動においては、メンタルヘルスを中心とした専門職による支援から、ストレスチェックや生産性測定などのツール提供まで総合的なサポートが可能です。また、健康データ分析により健康課題を把握し、健康経営およびコラボヘルスの推進を支援しています。

- 3.4 健康とウェルビーイング
- 4.4 技術的・職業的スキルによる働きがい向上
- 8.8 安全・安心な労働環境の促進



えるソリューションの提供



Insurhealth® (インシュアヘルス) 商品の発売

SOMPO ひまわり生命は、保険本来の機能 (Insurance) に健康を応援する機能 (Healthcare) を組み合わせた、従来にない新たな価値「Insurhealth® (インシュアヘルス)」を提供しています。

- 1.4 金融サービス・経済資源へのアクセシビリティ
- 3.4 健康とウェルビーイング
- 8.10 保険・金融サービスへのアクセシビリティ

■もしものとき、ご家族の生活をサポートする収入保障保険「じぶんと家族のお守り」

2018年4月、収入保障保険「じぶんと家族のお守り」を生活習慣改善のサポートができるよう改定しました。本商品は、「健康☆チャレンジ！制度」という契約後のアフターフォローが一体となっており、「SOMPO ひまわり生命の保険に加入すると健康になれる」というこれまでにない新たな価値を提供しています。



■がん予防から治療後のケアまでトータルでサポートするがん保険

「健康をサポートするがん保険 勇気のお守り」

2021年10月、「健康をサポートするがん保険 勇気のお守り」を発売しました。がんの早期発見を目的とした「がんリスク検査サービス」とがん治療後の日常生活復帰を支える「がん患者さま向けオンライン運動レッスン」を合わせて活用いただくことで、がん予防から治療後のケアまでをトータルでサポートする「Insurhealth® (インシュアヘルス)」を提供しています。



アジアで唯一ゴッホの《ひまわり》を鑑賞できる「SOMPO美術館」

SOMPO美術館は1976年の開館以来、600万人を超えるお客さまにご来館いただき、アジアで唯一ゴッホの《ひまわり》を鑑賞できる美術館として親しまれています。2020年5月には、新宿本社ビル42階から本社ビル前に移転し、地上6階建ての美術館として生まれ変わりました。公募展など新進作家への助成や美術鑑賞教育の普及支援を通じた社会貢献活動にも取り組んでいます。東郷青児を核にゴーギャン、セザンヌ、ルノワール、グランマ・モーゼスなど国内外作家の作品を収蔵し、地方美術館への作品貸出を通して地方創生に活用いただいています。企画展は年5回ほど国内外の作品の展覧会を開催、国内外から幅広い世代が訪れ楽しめる新宿のアートランドマークとして、多様な芸術・文化を発信しています。

- 4.7 持続可能な開発促進のための教育



SOMPO 美術館外観



《ひまわり》1888年
フィンセント・ファン・ゴッホ
SOMPO 美術館



Future Care Lab in Japan

～「人間」と「テクノロジー」の共生による新しい介護の創造プロジェクト～

当社グループは、2019年2月に「人間」と「テクノロジー」の共生による新しい介護のあり方を創造するプロジェクト「Future Care Lab in Japan」を始動し、国内外の最新テクノロジーの実証などを行う研究所を開設しました。ICT・デジタル技術の有効活用と、人が本来やるべき介護を改めて定義することを通じて、「人間」と「テクノロジー」の共生による新しい介護のあり方を提案し、介護サービスの生産性向上、介護職の処遇および働きやすさの向上、ご利用者さまの日常生活の充実度や満足度向上の実現を目指しています。

3.4 健康とウェルビーイング

17.16 マルチステークホルダー・パートナーシップ

1.3 社会保護制度



認知機能低下の抑制に有効なプログラム

「SOMPOスマイル・エイジングプログラム」の開発

当社は、高齢者の生活習慣改善を通じて認知機能低下を予防するプログラム「SOMPOスマイル・エイジングプログラム」を、FINGER研究※を率いたカロリンスカ研究所のキビベルト教授、および国立長寿医療研究センターの監修のもとで2020年に開発しました。キビベルト教授が公認する世界初の「FINGER研究の全国規模の社会実装プログラム」となります。今後、本プログラムを全国に展開していくことで、日本における認知機能低下リスクの低減を目指します。

3.4 健康とウェルビーイング

5.4 育児・介護・家事労働の認識強化

10.2 全ての人の能力強化

※ FINGER 研究とは、フィンランドで行われた「高齢者の生活習慣への介入による認知機能低下予防の研究」です。1,260名の高齢者を対象に、食事指導・運動指導・認知機能トレーニング・生活スタイル指導の4つの介入を同時に行うことで、軽度の認知機能障害の進行を抑制することを世界で初めて証明しました。



高齢社会への貢献



高齢者の運転寿命延伸を支援する「運転シミュレーター」

損保ジャパンと株式会社セガ・ロジスティクスサービスは、高齢者の事故の削減を目的として、運転に関する認知機能や運転技能を診断・トレーニングできる機能を備えた「運転シミュレーター」を共同で開発し、2020年3月から提供しています。昨今の高齢ドライバーによる事故の増加を背景に、2022年5月13日から改正道路交通法が施行され、サポートカー限定免許の導入や運転免許更新時に一定の違反歴がある75歳以上の方は運転技能検査が必要となるなど、高齢者の事故の削減が重要な課題となっています。事故を未然に防ぐためには、運転者自身が運転に関する認知機能や運転技能の状態を把握し、機能維持や技術向上のトレーニングを行うことで、健康で安全に運転できる状態を維持していくことが重要といえます。高齢者の事故削減に向けて運転シミュレーターを多くの方々に利用いただくことで事故の削減と安全なクルマ社会の実現を目指しています。

- 3.6 交通安全
- 11.2 輸送システムへのアクセシビリティ
- 17.16 マルチステークホルダー・パートナーシップ



～シニアの生きがい溢れる生活をサポート～

SOMPOケアの新サービス「いきガイド」

SOMPOケアは、より多くの高齢者が自分らしい毎日や社会とのつながりを愉しみながら生活できるようサポートする取組みとして、新サービス「いきガイド」をスタートしました。60歳以上のお元気な方から介護が必要な方までを対象としたサービスで、介護現場において多くの高齢者に寄り添ってきた経験豊富な職員が“ライフガイド”として、毎日の食事や健康管理に加えて、生きがいにつながる趣味や地域とのつながりづくりなど、高齢者一人おひとりが望む生活を実現するためのサービスをお届けします。2022年3月には本サービスの提供拠点となる「いきガイドステーション」を東京都世田谷区三軒茶屋にオープンしました。

- 3.4 健康とウェルビーイング
- 17.17 公的、官民、市民社会のパートナーシップ
- 2.2 栄養不良の解消





パーパス浸透と連動させた「働き方改革」の推進

当社グループでは、中期経営計画における基本戦略の一つとして、社員一人ひとりのやりがいや幸福度の向上、および圧倒的に高い生産性向上を実現するために「働き方改革」を進めています。働き方改革では、社員一人ひとりの「MYパーパス」の追求を土台と位置付け、最終的にSOMPOのパーパスの実現を目指しています。そのために、当社グループでは、3つのコア・バリューである、「ミッション・ドリブン」「プロフェッショナリズム」「ダイバーシティ&インクルージョン」を共有する人材集団の実現を目指します。その実現に向けて、様々なグループ共通施策を展開すると共に、取組み状況の可視化・分析を通じて、進捗の確認および改善につなげていきます。

- 8.2 イノベーションによる経済生産性向上
- 4.4 技術的・職業的スキルによる働きがい向上
- 5.5 女性参画、女性活躍



社員一人ひとりによるSOMPOグループの社会貢献の取組み

当社グループでは、企業として積極的に社会貢献活動に取り組んでいくとともに、社員が自主的に参画できるような意識醸成と制度面での支援を行っています。なかでも「SOMPO ちきゅう倶楽部社会貢献ファンド」は、当社グループの社員有志から寄付を募り、ボランティア活動費用や広域災害支援、NPOなどへの寄付に活用されています。また、同ファンドは大学生・大学院生を対象に、環境分野のCSO（市民社会組織）でインターンシップを体験できる「CSOラーニング制度」等にも活用されており、社員のみならず持続可能な社会に貢献できる人づくりにも役立てられています。

- 4.7 持続可能な開発促進のための教育
- 17.16 マルチステークホルダー・パートナーシップ
- 13.3 気候変動の適応・緩和に対する啓発



千葉県でのイベントの様子

変える人材集団の実現



オンライン企業内大学「損保ジャパン大学」

損保ジャパンは、社員一人ひとりが主体的にキャリアを描き、自ら学び、考え行動する基盤を構築するため、2020年10月に企業内大学「損保ジャパン大学」を設立しました。損保ジャパン大学では、誰でも・どこからでも参加できるオンライン講義や、インタラクティブな対話形式で学びを深めるゼミナールなどのコンテンツを展開しています。社員一人ひとりが損保ジャパン大学という学びのプラットフォームを活用し、成長することで、保険事業とその先の安心・安全・健康の領域で、お客さまにとって価値ある商品・サービスを創造し、社会に貢献する人材を育成していきます。



- 4.4 技術的・職業的スキルによる働きがい向上
- 8.2 イノベーションによる経済生産性向上
- 4.7 持続可能な開発促進のための教育

「The Action! ～SDGsカードゲーム～」

損保ジャパンは、SDGsが目指す世界への道のりや、さまざまな視点からSDGsに関する取組みをゲーム形式で体感することで、SDGsの理解を深め、SDGs達成に向けた行動につなげるための損保ジャパンオリジナルのワークショップを開発しました。このワークショップでは、チームのゴール達成を目指し、与えられたお金と時間を使ってプロジェクト活動を実行していくことで、現在から2030年までの道のりを体験します。当社社員が「The Action! ～SDGsカードゲーム～」のファシリテーターとなり、多様なステークホルダーに提供していくことで、SDGsの本質の理解促進およびパートナーシップ構築を図り、地域課題の解決を目指します。



- 4.7 持続可能な開発促進のための教育
- 8.2 イノベーションによる経済生産性向上
- 17.16 マルチステークホルダー・パートナーシップ



Palantir Technologies Inc との共同会社設立と 「安心・安全・健康のプラットフォーム」の取組み

当社とビッグデータ解析ソフトウェアプラットフォーム事業を展開する米国 Palantir Technologies Inc は、日本のデジタルトランスフォーメーションを支援する目的で2019年11月に Palantir Technologies Japan を共同で設立しました。

また、保険・介護・ヘルスケア分野におけるリーディングカンパニーとしてデータを活用したより良いサービスをお客様に提供するノウハウを蓄積してきた SOMPO と世界の主要な組織にセントラル・プラットフォーム・ソリューションを提供してきた Palantir の専門的知見を融合し「安心・安全・健康のリアルデータプラットフォーム」構築に向けて、3社共同で取組みを進めています。

- 17.16 マルチステークホルダー・パートナーシップ
- 9.1 持続可能なインフラ開発
- 3.4 健康とウェルビーイング



農業保険のグローバル統合プラットフォーム 『AgriSompo』

海外保険事業を展開する SOMPO インターナショナルホールディングスは、グローバルマーケットにおける統合プラットフォームである『AgriSompo』を展開し、北米、ヨーロッパ・ブラジル・東南アジア等の農業マーケットにおいて保険、再保険商品を幅広く提供しています。『AgriSompo』により、農家・農業事業者、農業保険会社に対して統一的な基準で保険引受（アンダーライティング）を行い、一連の商品に対する専門知識と技術を提供しています。

- 1.5 災害レジリエンス強化
- 2.4 レジリエントな農業
- 13.1 気候変動への適応



ヒアリングサーベイの様子



トナーシッポのプラットフォーム構築



社会課題を解決するための相互協力に関する協定の締結 RDP連携研究ラボの設立

当社は、国立研究開発法人 産業技術総合研究所（以下、産総研）と各々が強みを持つ分野の知見を相互に活用し、少子高齢化やニューノーマルへの対応といった社会課題を解決するため、包括的な相互協力に関する協定を締結しています。本協定は、共同研究などを効果的に推進することにより、その成果の社会実装をもって日本の経済の成長に貢献することを目的としており、最初に介護業界における社会課題の解決から取り組むことに合意し、RDP連携研究ラボを開設しました。

当社グループが保有するリアルデータや事業展開力と、産総研が持つ幅広い分野での先端技術に関する研究ポテンシャルという各々の強みを活かし、「持続可能な社会」というお互いの目指す姿の実現に向けて本格的に取り組んでいます。

- 17.17 公的、官民、市民社会のパートナーシップ
- 9.5 イノベーションによる研究促進・技術向上
- 8.2 イノベーションによる経済生産性向上



PayPayほけん

損保ジャパンは、キャッシュレス決済サービス「PayPay」のアプリ内から簡単に保険に加入できるサービス「PayPayほけん」ミニアプリへの商品提供を2021年12月から開始しました。様々な商品・サービスをスマートフォンから購入する消費行動は、その利便性から日常生活において広く浸透してきています。金融商品の購入に際しても「必要な時に手元のスマートフォンからいつでも調べられ、購入できる体験」はお客様の商品選択において重要度が高まりつつあります。そのような環境変化を踏まえ、多くのお客様の日常生活における保険の利便性向上のため、「PayPayほけん」ミニアプリを通じて、シンプルでわかりやすい保険商品を提供します。

- 8.10 保険・金融サービスへのアクセシビリティ
- 17.16 マルチステークホルダー・パートナーシップ
- 3.4 健康とウェルビーイング



◀ サステナビリティの考え方 ▶

当社グループは、企業としての社会的責任を果たすために「グループサステナビリティビジョン」をはじめとしたポリシーを策定しています。

■ グループサステナビリティビジョン ■

SOMPOグループは、未来に向けた対話を通じてステークホルダーと積極的にかかわりあいながら、高い倫理観のもと国際的な行動規範を尊重し、気候変動や生物多様性などの環境問題、人権やダイバーシティ&インクルージョン、地域社会への配慮などを自らの事業プロセスに積極的に組み込むとともに、社会に対して透明性の高い情報を積極的かつ公正に開示していきます。

また、常に一步先を見据えて、社会の安心・安全・健康に資する商品・サービスの提供をすることで、ソリューションプロバイダーとしてレジリエントで持続可能な社会の実現に貢献していきます。



3つのポリシーの全文は、当社の公式ホームページで開示しています。
(<https://www.sompo-hd.com/csr/system/vision/>)

※ 2022年6月末日現在

社外からの主な評価

Dow Jones Sustainability Indices (DJSI World)

への組入

企業の持続可能性を「経済」「環境」「社会」の3つの側面から評価し、先進的な取り組みをしている企業をDJSI構成銘柄として抽出した、世界の代表的なサステナビリティ・インデックスです。損保ジャパンが最初に組み入れられてから通算で21回目の組入れとなりました。

(2021年11月)



CDP(気候変動)調査にてA評価獲得

当社は、世界の主要な機関投資家が企業に気候変動への戦略や温室効果ガスの排出量の公表を要請する国際的なプロジェクト「CDP」の気候変動で、最高評価である「気候変動Aリスト」に選定されました(通算5回目)。



「健康経営銘柄2022」に選定

当社は、健康経営に優れた企業として経済産業省と東京証券取引所が共同で選定する「健康経営銘柄2022」に選定されました。2019年から4年連続の選定となります。あわせてSOMPOグループの22社が、経済産業省および日本健康会議が運営する健康経営優良法人認定制度において、「健康経営優良法人2022大規模法人部門」および「健康経営優良法人2022中小規模法人部門」に認定され、そのうち11社が「健康経営優良法人2022大規模法人部門(ホワイト500)」に認定されました。(2022年3月)



第9回・第10回アジア太平洋高齢者ケア革新アワードにて最優秀賞受賞

SOMPOケアは、高齢者のQOL(Quality of Life)向上に卓越した事業・サービスモデルを表彰する国際的な賞『アジア太平洋高齢者ケア革新アワード』において、第9回(2021年度)「BEST SMART CARE TECHNOLOGY-OPERATIONAL MANAGEMENT SOLUTION」部門 最優秀賞、第10回(2022年度)「OPERATOR OF THE YEAR-ASSISTED LIVING」部門 最優秀賞を受賞。介護における人間尊重を理念とした革新的な取り組みが高く評価されました。



東洋経済新報社「CSR企業ランキング2022年版」のCSR部門にて第2位を獲得

当社は、東洋経済新報社「CSR企業ランキング2022年版」の全業種のCSR部門合計において第2位を獲得しました。(2022年2月)

「ESGファイナンス・アワード・ジャパン」にて「銀賞」を獲得

損保ジャパンは、環境省主催の第3回「ESGファイナンス・アワード・ジャパン」の金融サービス部門において、「銀賞」を獲得しました。(2022年2月)



※本誌掲載のQRコード、URL、サービスは、予告なく変更となる場合があります。
※本誌掲載の写真、図版などの無断転載・複製を禁じます。



SOMPOホールディングスは持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。

SOMPOホールディングス株式会社

〒160-8338 東京都新宿区西新宿1-26-1

TEL.03-3349-3000

URL <http://www.sompo-hd.com/>

